読んだ本　（藤嶋昭／監修　松下清／責任編集）　北野書店

「地球のびっくり！数の図鑑」

川崎市立東小倉小学校五年　窪田（くぼた）　映子（えいこ）

みんなは「数」について疑問に思ったことがあるる？私は数を身近に思っていたし、あっての当たり前のものとして使っていた。でもこの本と出会って数に興味を持ち、数について知りたくなった。今では日頃、数字がもっと知りたくなんだろう？」と思い、考え方が広がった。

私がこの本を読み、驚いたことは二つある。

一つ目は太陽と月の大きさだ。太陽と月は同じくらいの大きさだと思っていた。でも実際は、この予想とは全く違っていた。太陽は月より四百倍大きい。でも地球と太陽の距離がよりも四百倍も離れている。地球と月の距離の約四百倍も離れているんだ。

二つ目は地球から月までの距離だ。地球から月まで歩く約十一年もかかる。つまり赤ちゃんが小学五年生になるまでと同じくらい時間がかかるということ。また太陽までだと、その四百倍だから四千四百年かかる。そう思うと、とても恐ろしく感じた。

「数」とは表し方は特別。数がなかったら不便だ。もし数がなかったら、時計がないから朝起きても何時かわからない、料理するのにも困る。おお金を使ってどの買いものの時も量を量るこの時間、温度、重さ、距離、広さ、価値があるかを知ってみたら二十五種類もあったけど、単位を数えるんだ。他にも知らない単位がたくさんあるんだと思う。私はまだ人生の八分の一しか生きていないんだから。

この本は一ページずつめくっていくごとに謎が解けていく。その謎が解けると、自分の身の回りの疑問について考えるヒントになる。この繰り返しだ。だからこの本にのっていることは以外も自分で考え、つなげることができる一冊だ。

この本には考え方を広げる力がある。みんなもこの本を読んで、数について改めて興味を持ち、考え方が広がればいいなと思う。